

# 令和6年産水稻生育結果概況 及び 令和7年産対策

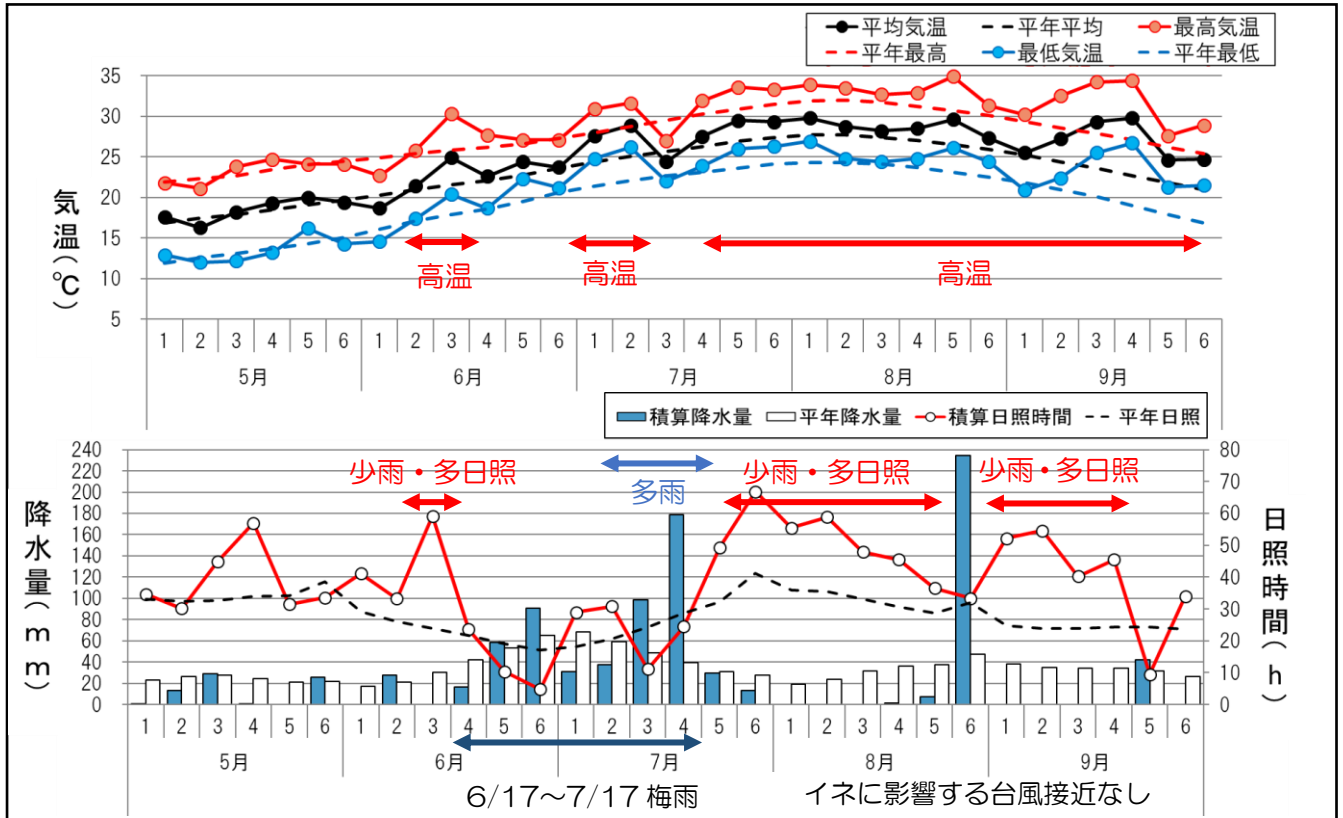
令和6年 11月 25日

J A山口県長門統括本部

長門農林水産事務所農業部

- 作柄は「やや良」 作況指数 長北 104
  - 一等米比率 74.2% (前年より2.8%低い)
- 少雨・登熟期の高温により、充実不良・白未熟粒が多かった

## 1 気象概況



5月：田植え前の少雨により、一部で移植遅れ発生

6月：中旬は気温が高く、6月17日に梅雨入りし、梅雨の期間は平年より寡日照の傾向

7月：上旬は気温が高く、中旬は寡日照多雨の傾向。7月17日の梅雨明け後は、高温・多日照

8月：降水量ごく少なく、高温・多日照の傾向となり、コシヒカリは充実不良・白未熟粒が発生し、品質が低下

第6半旬は台風10号の影響により多雨

9月：降水量ごく少なく、高温・多日照の傾向となり、きぬむすめは充実不良・白未熟粒が発生し品質が低下

## 2 病害虫の発生概況

いもち病：7/11に初確認され、一部で穂いもちへの進展による減収が見られた。

紋枯病：平年よりやや多く発生した。前年の多発ほ場を中心に発生し、一部ほ場で収量に影響した。

トビイロウンカ：6月下旬に油谷で確認されたが、飛来数は平年並みで収量への影響はなかった。一部、直播ほ場でトビイロウンカによる坪枯れが確認された。

コブノメイガ：7月から被害葉が見られ始め、8月には葉色が濃いほ場で多発したが、収量への影響は小さかった。

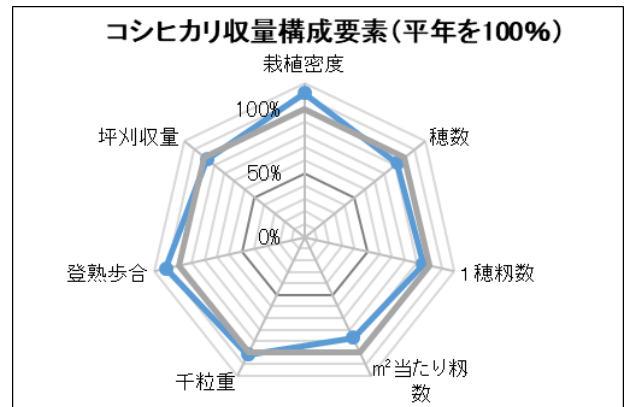
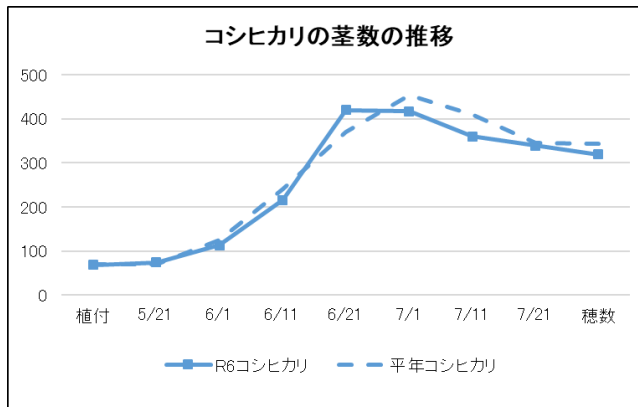
斑点米カメムシ類：7/17 注意報が発令された。発生数が平年に比べやや多く、被害粒が散見された。イネカメムシにより、一部ほ場で不稔が発生した。

### 3 定点調査ほ場における生育概況

品種	年産	移植期	出穂期	成熟期
コシヒカリ	R6	5/9	7/25	8/29
	平年	5/9	7/27	8/31
ひとめぼれ	R6	5/16	7/25	9/1
	平年	5/18	7/29	9/4
きぬむすめ	R6	5/29	8/15	9/22
	平年	5/27	8/15	9/27
あきだわら	R6	6/1	8/12	9/22
	平年	5/31	8/13	9/25

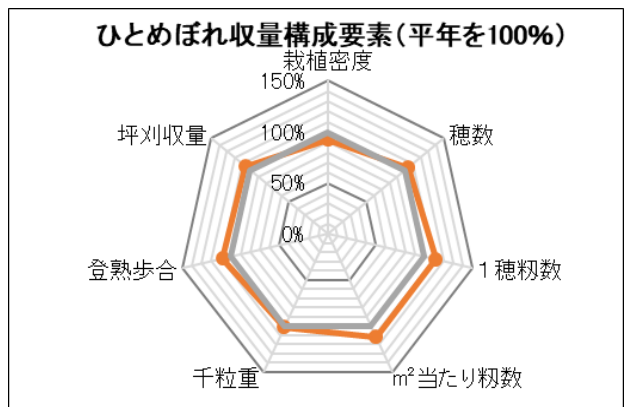
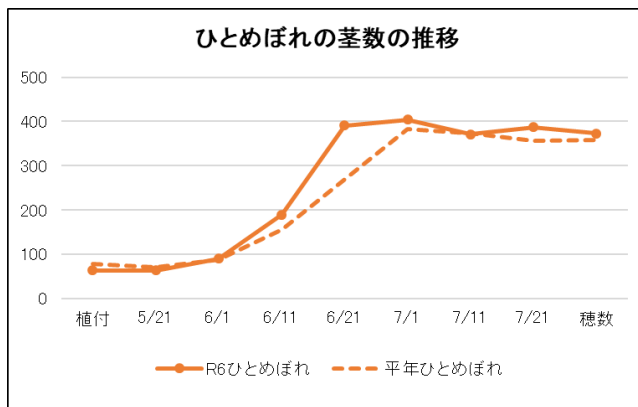
#### 【コシヒカリ】

- 出穂期・成熟期は平年より2日早かった。
- 茎数は平年並～やや少なく推移し、穂数は少なかった。
- 穂数が少なく、一穂粒数もやや少なかったため、 $m^2$ 当たり粒数は少なくなったが、登熟歩合は高くなり、収量は平年並。
- 一等米比率はコシヒカリ 49.5%となった。早期落水による充実不良や登熟期の猛烈な高温による高温障害により白未熟粒（特に心白粒）が発生し、品質が低下した。



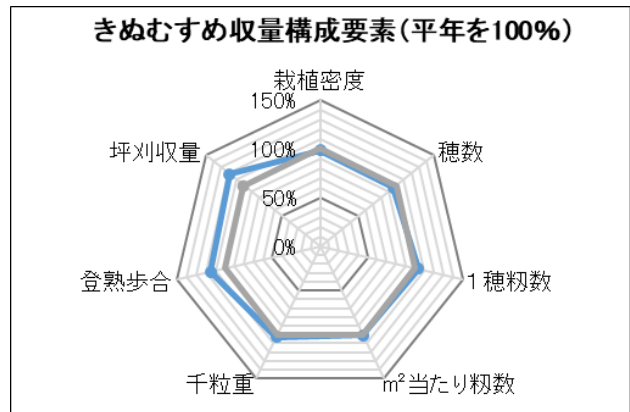
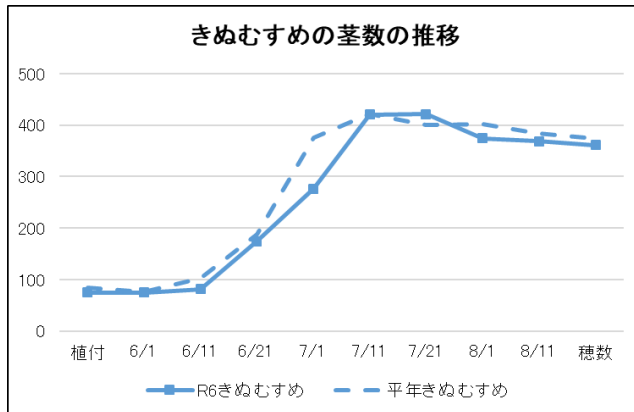
#### 【ひとめぼれ】

- 出穂期・成熟期は平年より3～4日早かった。
- 茎数は平年よりやや多く推移し、穂数も平年よりやや多くなった。
- 一穂粒数が多くなり、 $m^2$ 当たり粒数は多くなった。千粒重は平年並みで、登熟歩合も高く、収量は平年よりやや多かった。
- 1等米比率はひとめぼれ 87.1%となった（前年より4.6%高い）。



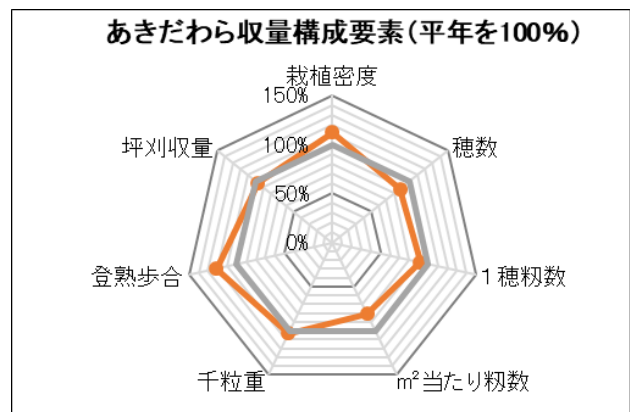
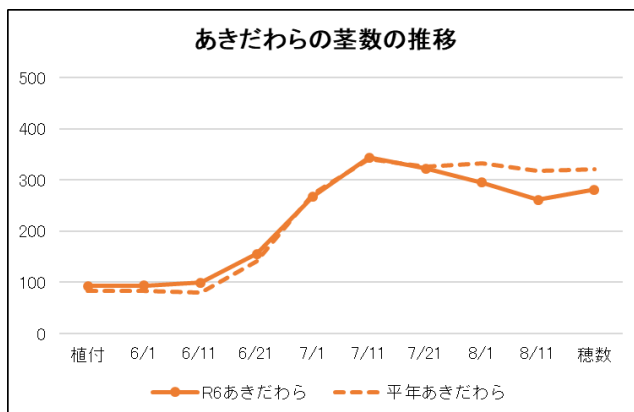
## 【きぬむすめ】

- 出穂期は平年並、成熟期は平年より5日早かった。
- 茎数はやや少なく推移し、穂数はやや少なかった。
- 穂数はやや少なく、1穂籾数はやや多かったため、 $m^2$ 当たり籾数は平年並みとなった。また、登熟歩合が高く、収量は平年より多かった。
- きぬむすめの一等米比率は72.9%となった。早期落水による充実不良や登熟期の猛烈な高温による高温障害により白未熟粒（特に心白粒）が発生し、品質が低下した（前年より21.9%低い）。



## 【あきだわら】

- 出穂期は平年並、成熟期は平年より3日早かった。
- 穂数が少なく、1穂籾数も少なかったため、 $m^2$ 当たり籾数は少なくなった。また、登熟歩合が高く、収量は平年並みとなった。



## 4 来年産対策

### (1) 気象変動に左右されない米作り

- 「長門大津稲作栽培指針」2～3ページの重点項目を参考に、適期・適正な管理を行いましょう。

- |           |           |              |
|-----------|-----------|--------------|
| ①健全な土づくり  | ②健全な苗づくり  | ③適正な田植え      |
| ④初期の水管理   | ⑤けい酸加里の施用 | ⑥中干しと溝切り     |
| ⑦出穂前後の水管理 | ⑧肥料切れ対策   | ⑨早期落水防止・適期収穫 |

## (2) 高温障害対策

- 高温時に品質低下を助長する要因を参考に、高温障害に対応した栽培管理を行いましょう。
  - ①過繁茂（中干しなどが十分できていない、植え込み本数が多い）
  - ②出穂期後の栄養不足（肥料が足りない、地力の低下）
  - ③根傷み（水のためっぱなし、落水時期が早すぎる）
  - ④刈遅れ
- 平坦部では登熟期間に高温に遭いやすいコシヒカリから、出穂期が遅いきぬむすめ等の品種への切り替えも検討してください。

## (3) いもち病対策

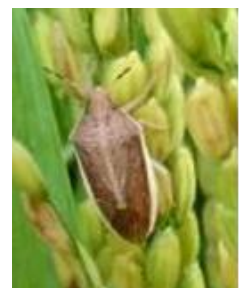
- 年内にすき込みましょう。
- 種子消毒（テクリードC等）は必ず実施しましょう。
- 窒素肥料の多用は避けましょう。
- ほ場をよく観察し、病斑を見つけたら速やかに防除を行いましょう。
- 本田防除は、穂ばらみ後期と穂揃期の2回行いましょう。

## (4) トビイロウンカ対策

- トリフルメゾピリム又はオキサズスルフィルを含有する箱施薬剤を使用しましょう。
- 出穂前後の防除を徹底しましょう。

## (5) 斑点米カメムシ類対策

- 県内一斉草刈り推進期間（7月上中旬）に畦畔や休耕田の草刈りを徹底しましょう。
- 本田の基幹防除を徹底しましょう。
- 特に近年増加している「イネカメムシ」には出穂期の防除が必要です。



イネカメムシ

## (6) 雑草対策

- 雑草の種類と葉齢を確認し、適期を逃さず除草剤を散布しましょう。
- 湛水処理での除草剤散布時には水深3~5cm程度（フロアブル剤やジャンボ剤の場合は5~6cm）を保ちましょう。
- 次の方法と組み合わせて耕種的に防除しましょう。
  - ・ほ場の均平のため冬期の埋戻し等を行う。
  - ・代かきを丁寧に行う。
  - ・植代後、ほ場が落ち着いたら速やかに田植えを行う。
  - ・同じ成分の除草剤を長年使用せず、他の成分のものとローテーションする。

- ・栽培中に発行する『稲作ワンポイントアドバイス』を参考にしてください。
- ・栽培中、LINEでも情報発信をしています。右のQRコードから登録できます。

